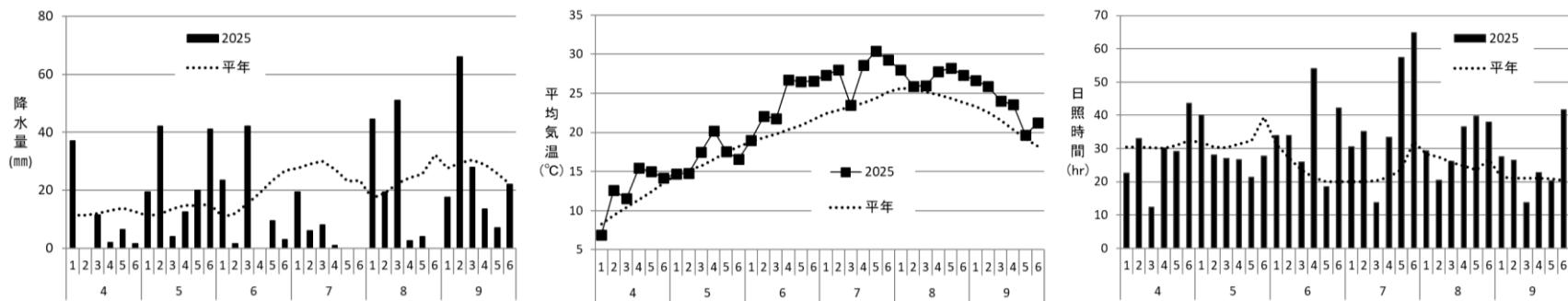


水稻現地栽培指導会資料（水田収穫後の管理）

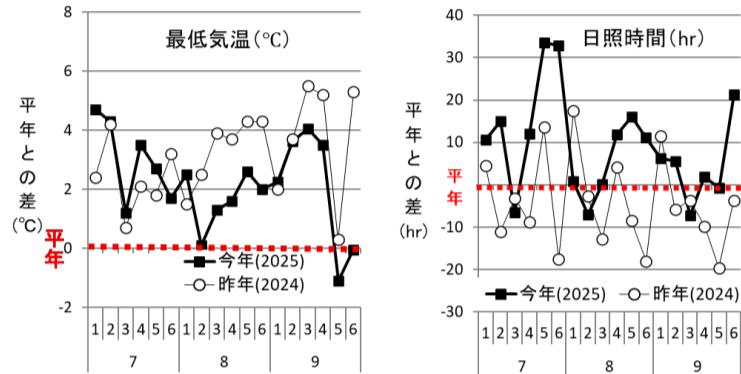
令和7年10月6日
福島県北農林事務所伊達農業普及所

1 気象経過（アメダス梁川・4月1半旬～9月6半旬）



（1）気象の特徴

- | | |
|------------|-----------------------|
| 4月：高温 | 梅雨入り：6/23
(平年+11日) |
| 5月：多雨寡照 | 梅雨明け：7/18
(平年-6日) |
| 6月：高温多照 | |
| 7月：高温少雨、多照 | |
| 8月：高温 | |
| 9月：高温 | |



最低気温は平年より高かったが、昨年より低かった。
日照時間は平年、昨年より多かった。

2 水稻の生育概況

（1）生育ステージ別の概況

- 播種～育苗期：播種盛期は4/17(平年並)であった。4月からの高温の影響で苗が徒長ぎみで一部、田植作業を早くする農家もあった。また、高温の影響により細菌性病害(立枯)が平年よりやや多く発生した。
- 田植～活着期：田植え盛期は5/16(平年並)であった。田植え終期は6/9(平年+3日)となり、大規模農家を中心に田植え作業が長期化している。田植え後、表層はく離やアオミドロ等の発生が多く、日照が平年より少なく、活着が緩慢なほ場が見られた。
- 分けつ期：6月は平年よりも気温が高く多照で、生育は進んだ。中干しは6月中旬頃から7月上旬にかけて実施された。
- 出穂期：高温の影響により、出穂始期7/28(平年-3日)・出穂盛期8/6(平年-2日)ともに早まった。
- 登熟期：出穂後の高温の影響で登熟が進み、管内「コシヒカリ」の成熟期は9/15(平年-5日)だった。このため、収穫作業も平年より早く推移している。稈長が平年より長く(平年比107%)、「コシヒカリ」を中心に倒伏の発生が早く、その後の降雨で増加した。出穂期以降の日平均気温は平年より高いが、最低気温は昨年より低い傾向であった。このため、高温登熟による白未熟粒は昨年より少ない傾向(9月末現在)。ノビエ、クサネム等が出穂以降特に目立った。

表1 作柄判定は生育調査結果(1)

品種名	調査地点	年次	田植日	植付株数 (株/m ²)	6月20日				7月5日				7月15日			
					草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色	
							葉色板	SPAD 502			葉色板	SPAD 502			葉色板	SPAD 502
コシヒカリ	梁川伊達町大関	本年	5/5	18.6	49.8	356	4.7	45.0	72.4	399	2.6	35.5	79.6	397	2.3	28.5
		前年	5/6	15.9	45.8	735	4.5	40.5	62.6	584	2.7	29.7	80.2	532	2.7	32.4
		平年	5/13	16.1	39.4	527	4.2	40.7	58.6	613	3.3	36.0	72.8	572	2.8	34.6
		平年比	-8	+2.5	126%	68%	+0.5	+4.3	123%	65%	-0.7	-0.5	109%	69%	-0.5	-6.1

表2 作柄判定は生育調査結果(2)

年次	出穂期 (月/日)	稈長 (cm)	穗長 (cm)	穂数 (本/m ²)	成熟期 (月/日)
本年	8/5	95.7	20.4	286	9/12
前年	8/1	88.6	17.7	352	9/5
平年	8/8	89.2	18.6	378	9/18
平年比	-3	107%	110%	76%	-6

表3 伊達管内の主要品種出穂状況(月/日)

品種	本年	前年	平年	平年差
天のつぶ	7/30	7/30	8/1	-2
コシヒカリ	8/7	8/4	8/9	-2

表4 伊達管内の主要品種登熟状況(月/日)

品種	本年	前年	平年	平年差
天のつぶ	9/7	9/6	9/10	-3
コシヒカリ	9/15	9/9	9/20	-5

3 本田の病害虫、雑草等の発生状況

(1) 病害

- ・ばか苗病：平年よりやや多い
- ・葉いもち：平年より少ない
- ・穂いもち：平年より少ない
- ・稻こうじ病：平年より少ない
- ・紋枯病：平年よりやや少ない
- ・ごま葉枯病：平年並

(2) 虫害

- ・イネミズゾウムシ：平年並
- ・イネドロオイムシ：平年よりやや多い
- ・ニカメイチュウ：平年並（発生は微）

- ・イネアオムシ（フタオビコヤガ）：平年より少ない

- ・イネツトムシ（イチモンジセセリ）：平年並
- ・イナゴ・クサキリ類：平年並
- ・斑点米カメムシ類：平年よりやや多い

(3) 雜草発生状況と多発の要因

- ・出穂以降にクサネム及びヒエの多発。
- ・漏水田、用水等から水漏れ、田面の露出等、水管理が不十分。
- ・初中期一発剤の過信、中・後期剤との体系防除及び散布タイミングの検討が必要。

(4) その他管内でみられる症状

- ・倒伏が8月中旬以降コシヒカリ等で発生し降雨の影響で増加。

4 収穫後の管理

(1) 土づくり

○ 有機物の投入

- ・稻刈り後、分解促進資材（例：ワラ分解キング：10 kg/10a）とともに浅めにすき込む（5～10 cm）。

※気温が15°C以上（10月中旬頃）の時に行うと分解が早く進む。

- ・稻わらをほ場外に持ち出した場合は、たい肥1 t/10aを散布し、耕うんする。

○ 土壤改良資材の投入

- ・けい酸資材は、根の酸化力が増進され病害虫や土壤還元に効果が期待されるため、適切に施用する。
- ・ようりんは、りん酸、けい酸、苦土、石灰がバランスよく含まれているので、土づくり肥料として施用する。

肥料名	成分(%)	施肥量(/10a)	備考
田んぼマスター	P4、K10、Mg2、Mn1、Si14、Fe10	60～100kg	老朽田対策に効果あり
ケイカルニアップ	P7、K6、Mg3、Si18	60kg	登熟、食味向上に期待
粒状ようりん	P20、Mg12、Si20、Fe4	60～100kg	食味向上に期待

(2) 雜草対策

○ 除草剤による化学的防除（ほ場例：クログワイ等の多発ほ場）

- ・刈取後、雑草が枯れる前に非選択性除草剤を散布する。
- ・収穫部位をやや高くしたり、再伸長後の茎葉部（20 cm以上）に除草剤を散布する。
- ・低温では効果が劣るので、生育期（葉先が黄化する前）に散布する。

除草剤名	対象雑草	使用量(/10a)	散布液量(/10a)	使用時期	使用回数
ラウンドアップ	一年生雑草	200～500mL	通常散布50～100L 少量散布5～50L	雑草生育期	1回
	多年生雑草	500～1,000mL			

注：上記の使用方法は令和7年10月1日現在の農薬登録に基づき記載しています。

○ 耕うんによる物理的防除（ほ場例：クログワイ等の少発生ほ場）

- ・土壤が乾燥するほ場では、秋冬期に数回耕うん（目標15 cm）して、塊茎を損傷させ寒さにさらす。

◎9/1～10/31は、秋の農作業安全運動重点推進期間です。農作業事故に注意しましょう！！

◎安全・安心の見える化のため、認証GAPに取組みましょう！

◎収入保険や農業共済制度で農家経営の安定を図りましょう！

◎地域計画の実践や農地中間管理事業の活用により、地域農業を守りましょう！